

ひだご坊真宗教化センターだより 2021年4月号

発行日:2021(令和3)年3月31日 第9号 発行者:飛騨御坊真宗教化センター長・高山別院輪番 三島多聞

高山市鉄砲町6 ☎ 0577-32-0776 web <http://hidagobo.jp> ✉ takayama@higashihonganji.or.jp

サンガを見出す報恩講

昨年11月、御坊報恩講が無事に勤まりました。コロナ禍での厳修ということで、様々に安全対策が講じられるとともに、別院の駐車場収入激減による財政難の中で、荘厳を含めあらゆる部分で縮小せざるを得ませんでした。安全に滞りなく、そして形を変えてでもお勤めできたことは有難いことでした。「毎年の例時」としての報恩講は決して因習などではなく、報ぜずにはいられない、謝せずにはいられないという念仏の行者によって勤められてきたのでしょう。たとえコロナ蔓延の状況下であっても、不要不急のこととして済ませられない意味を問われたことです。

さて、昨年の報恩講も例年の如く、堂内には可愛らしい子どもの書道・絵画の作品が飾られました。このことは私にとってとても意味深いものでした。飛騨御坊真宗教化センターの発足に伴い、その教化理念に則って既存の教化は一から見直され、教化費縮小も踏まえて各部会では事業仕分けがなされました。報恩講における「子ども作品展」も、我々青少年部会において検討されました。作品展の手配や準備には時間も人手も要して大変な作業であるし、子どもやその親世代が作品展を通して御坊と縁を結

ぶことは大切なことだといっても、その効果は一体如何ほどのものか…。ただ、このコロナ禍で、子どもたちの日々の努力や頑張りが披露される場が減っている中において、御坊は止めずに続けたい、子どもたちの取り組みが報われる場所でありたいという思いで事業執行を決めました。

昨年は、多くの書道塾においてコロナによる休会があると聞いていました。出品数も少ないだろうと見越して、賞の数を減らし、賞品の内容も見直すことで低予算に抑えた運営を図りました。しかし、その見立てとは異なり、応募数は200点を超えました。作品審査は、新井秀泉先生にご依頼。そして審査当日、先生は作品を前にしてこう仰いました。「この作品展には多くの書道塾が協力してくれている。少なくとも各塾から一人は受賞者を出してあげたい。本当はみんなに賞をあげたいが、審査だから見るべきところを見て選ばなければならない。それは心苦しく大変なこと。賞をもらうということは子どもにとって何より嬉しいことだし、励みになる。賞品なんて要らない。それが欲しくて頑張っている子はいない。そして、ずっと続けて出品してくれている子には、やっぱり卒業までには賞を付けてあげたい。努力賞としてその子を讃えてあげたい」と。そして、一つひとつ

の作品を手に取り見つめながら、「いいなあ、この字好きだなあ」と言って感動しているのです。

私はこの作品展を全体として眺め、報恩講の一つの賑やかしとしてしか考えていなかったことを恥ずかしく思いました。書や絵画に向き合ってくれた子ども一人ひとりの顔など微塵もよぎらなかつたのです。そして、事業費削減として賞の数を減らすなど、全くトンチンカンなことをしていたと情けなくなりました。私にとってこのたびの報恩講は、いつもとは違う、光り輝く堂内に身を置かせてもらったと思うのです。

御坊報恩講は、センター十文字教化体制の集大成であり、全ての教化事業成果もこの報恩講に帰結します。報恩講にどれだけのお参りがあつたか、お勤めの声はそろっていたか、そんな全体像ではなく、御坊に縁を結ぶ一人の念仏者と出会う。そういうサンガを見出す報恩講、そして教化事業(歩み)でありたいと思います。

「毎年の例時」とは、共に教えを聞き合う朋との出遇いを喜ぶ場であつたのです。

青少年部会幹事

高山一組 真運寺 三島大遵



★センターからのお知らせ★

第6回 企画会議報告

去る3月16日、第6回企画会議が開催された。主な協議事項、確認事項は以下のとおり。

1. 高山別院報恩講について

「十文字教化体制の集大成として「御坊報恩講」を勤め、センター教化・各部会の事業成果は報恩講に帰結する」(『センターの理念』より)

このセンター設立の理念に則り、企画会議において別院報恩講の特に教化面について議論していくことが確認されている。今年の報恩講については、特に帰敬式と報恩講執行にかかる経費の2点を軸に取り組むことがセンター長から提案され確認された。

2. 「飛騨御坊真宗教化センター帰敬式推進計画」の策定について

現在のところ、帰敬式に関する具体的な施策についてまとめられたものが無いため、センター・組・寺院が共通認識を持ち、連動して帰敬式受式を推進していくため、センターとしての推進計画を取りまとめる。

3. 「是旃陀羅」問題に関する学習会の開催について

『観経』における「是旃陀羅」の差別性については、1922年の全国水平社創立時から指摘を受けてきており、2013年には、『現代の聖典-学習の手引き』に対する部落解放同盟広島県連からの厳しい問題指摘がなされている。

この問題指摘については、本山宗務所内だけでなく各教区においても課題共有のための学習が行われてきている。ついては、高山地区においても下記のとおり学習会を開催することを決定した。

期日:2021年5月14日(金) 午後1時半～

講師:解放運動推進本部より派遣 会場:別院ご坊会館

真宗公開講座

4月21日(木) 午後2時～ 講師:尾畑文正氏(三重教区専稱寺前住職)

講題:世の中安穩なれ、仏法ひろまれ 聴講料:500円

『青少年勤行集』の無償配布について

★子ども会・月参り・ご法事などで子どもたちに手渡しを★

「飛騨御坊御遠忌750」の記念事業として発行された『青少年勤行集』を、今後、無償にて頒布することとなりました。

各ご寺院におかれましては、縁ある青少年に配布いただける冊数(上限20~30冊)を無償でお渡しできますので、高山教務支所までお申し出いただきますようお願いいたします。



■真宗の葬儀と他宗の葬儀の意味

その違いを明確にしておくべきである

大谷派において、帰敬式未受式者の死に際しては、枕経の時に内仏の前で執行することとなっている。どうしてわざわざ葬式で行うのか。

また戒名の話となるが、臨済宗や曹洞宗など、浄土宗もそうであるが、葬儀の次第を見ると、先述の「没後作僧」の儀式として、亡くなった者に対して、剃髪、授戒をして戒名を授けることとなっている（浄土宗は通夜）。ひょっとして、他宗のこの作法を漫然と取り入れてしまっているとしたら大問題である。他宗とは異なり、真宗の葬儀は、授戒式でも戒名授与の場でもない。

真宗の葬儀と他宗の葬儀とでは、法衣やお勤めの違いがあるが、つまるところ同じようなことがなされていると考えられているのではないかと。僧侶自体が怪しいし、ご門徒に至っては、おそらくその違いが理解されていないのではないかと。このこと自体が、同朋会運動における具体的な課題と言っている。

■帰敬式の意味が理解されれば

おのずと真宗葬儀の意味も明らかとなる

今日、葬儀の意味が曖昧になって云々と言われるが、そのことについては、帰敬式の意味を確か

めることから考えていただければ良いのではないかと。帰敬式の意味が理解され受け止められれば、おのずと真宗の葬儀の意味も明らかとなる。そういうものであるべきではないか。

重ねて申し上げるが、真宗の葬式次第の中には、剃刀を行法名を授けるという作法はどこにもない。重々承知しておくべきことである。

■現生正定聚という意義を持った儀式としての帰敬式を

没後の葬儀に先立っての剃刀を完全に否定するわけにはいかない、その縁なくして亡くなった方と家族にとっては大切なことである。帰敬式を受けておられない方であっても、念仏を称え、または念仏のご縁を生きてこられたことは事実である。念仏相続の使命をもって、残された親族のためにも法名を受けていただく。

しかし、没後の執行は、枕勤めでの執行であったとしても、死後往生、諸行往生をどうしても彷彿とさせるものである。他宗と同じように、授戒と引導によって成り立つ葬儀であると思込ませてしまうことにもなってしまふ。

だから、没後の執行にあたっては、遺族には帰敬式の意義を伝え、没後受式がダメなこととはならないよう配慮しながら、遺族には存命中に受式

いただくことの理解を促すべきである。

本願の宗教、現生正定聚が願われることの意義をもって、存命中に受式いただくことを上手に力強く勤める機会とすべきである。

■我々真宗僧侶に、今日に至っても死後の法名授与としてきていることへの慚愧の念はあるのか

1996年に提唱された「帰敬式実践運動」の意味は大きい。存命者に対し、住職が帰敬式を執行することができるようになった。帰敬式授式の機会が断然多くなったわけである。

しかし、このことの意義の大きさがなかなか浸透していかない。そこには宗派としての取り組みの弱さもあるが、我々僧侶一人一人の認識の弱さ、もっと言えば無関心さが原因としてあると思う。さらに言えば、先述したような歴史的な事情があったとしても、死後のこととしてきていることに対する慚愧の念が、今日の我々真宗僧侶からは一塵も感じられないということもある。「帰敬式に関する制度が変わった」くらいのことでしか考えられていないように感じる。漫然と無自覚に葬儀の冒頭で剃刀法名授与を行っていることがその証左ではないか。

一口法話 web ひだご坊で配信中！

<https://hidagobo.jp/>

4月のお話

4月 1日～ 神村 陽子氏（高山一組 蓮乗寺門徒）
4月 16日～ 日野 光洋氏（益田組 桂林教会）

※印刷したものの郵送をご希望される方は、教務支所までご一報ください。

「高山市民時報」法話連載をスタート

4月から、高山市民時報社と提携して、同社発行の『高山市民時報』に法話の連載をいたします。第1回は三島多聞輪番（センター長）執筆となり、教区内僧侶による月4回の掲載となります。頒布地域は限られますが、購読されている方はご覧いただきますようご案内いたします。

飛騨御坊真宗教化センター・高山別院 2021年4月行事予定

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院	会場
1	木			
2	金			
3	土	13:00	別 三日のご坊 法話:春國 文春氏(玄興寺住職)	本堂
4	日			
5	月	7:00 10:00 15:00	別 半日華 本 真宗本廟お待ち受け大会 Web 聴講 セ 育成部会	センター室
6	火	13:30	セ 総合企画室打合せ	センター室
7	水			
8	木	14:00	岐 聖典学習会(講師:高柳 正裕氏) Web 聴講	
9	金	14:00 19:00	本 坊守会連盟若坊守研修会 Web 聴講 組 高山二組親鸞教室⑤	ご坊会館
10	土			
11	日	13:00	別 大谷婦人会追弔会・総会 法話:輪番	本堂
12	月			
13	火	7:00 7:00 13:30	別 前住上人ご命日 別 半日華 本 女性会議 Web	本堂 センター室
14	水			
15	木	15:00	教 教区門徒会臨時会 Web	研修室
16	金			
17	土	19:00	組 高山一組親鸞教室①	研修室
18	日			
19	月			
20	火	14:00 18:30	本 坊守会連盟坊守研修会 Web 聴講 岐 仏教公開講座(講師:佐野 明弘氏) Web 聴講	
21	水	14:00	セ 真宗公開講座(講師:尾畑 文正氏)	本堂
22	木	19:00	教 教化研究所	研修室
23	金			
24	土			
25	日			
26	月	7:00	別 半日華	
27	火	13:00 13:30	別 親鸞聖人お逮夜 セ 企画会議	本堂 研修室
28	水	13:00	別 親鸞聖人御命日 法話:北條 秀樹氏(了泉寺住職)	本堂
29	木			
30	金			

5月 ※15日ごろまでの掲載とし、定例行事は省きます。

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院	日	曜	時間	ご坊センター・高山別院
1	土	19:00	組 高山1組親鸞教室②	12	水	14:00	組 一組真宗の会公開講座 太田浩史氏
7	金	14:00	岐 聖典学習会 Web 聴講	15	土	19:00	組 高山一組親鸞教室③
9	日	9:00	組 初参り式				

テレビ番組 ごほうチャンネル! 第3弾

高山市ケーブルテレビ「Hit net TV!」

放送期日 4月1日～30日 毎日放送!

放送時間 午前11時15分～30分

午後5時30分～45分

※放映時間が変更になりました。

放送内容 お坊さんのお話、映像「仏典童話」など

視聴方法 高山市ケーブルテレビ「Hit net TV!」への加入が必要です。

(お問い合わせ先 0800-200-8688)

過去のものは YouTube 配信中してます。

チャンネル登録お願いします(^_^)☆



佐奈姫ちゃん

本山荘川桜が満開となりました

一本山から届く春の便り—

本日3月31日は快晴の京都です。少し青葉が見え始めています。今日明日くらいまでが見頃です。<撮影者メッセージ>

2年後の慶讃法要の第一期法要は3月25日からなので、この頃に団体参拝できれば、満開の本山荘川桜を見ることができそうです。

楽しみです(^o^)

